

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

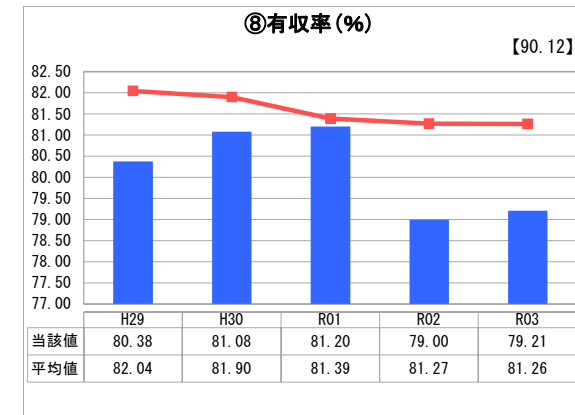
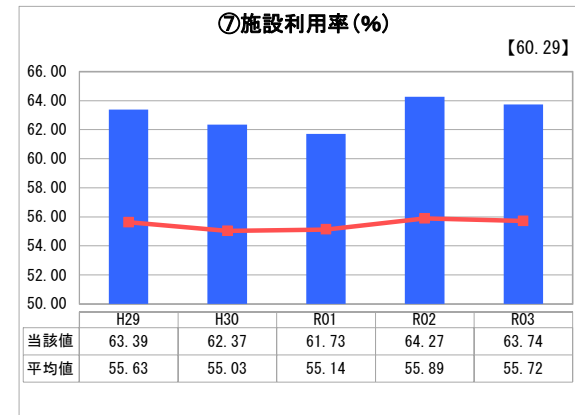
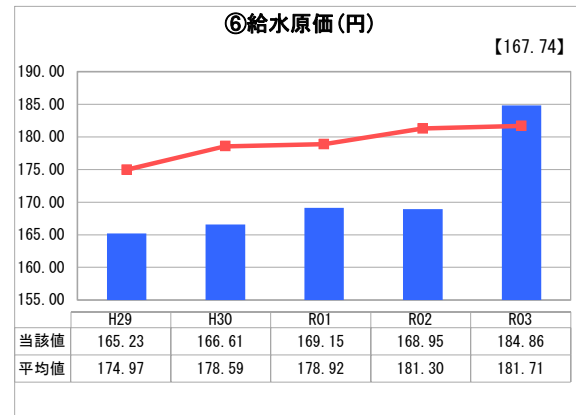
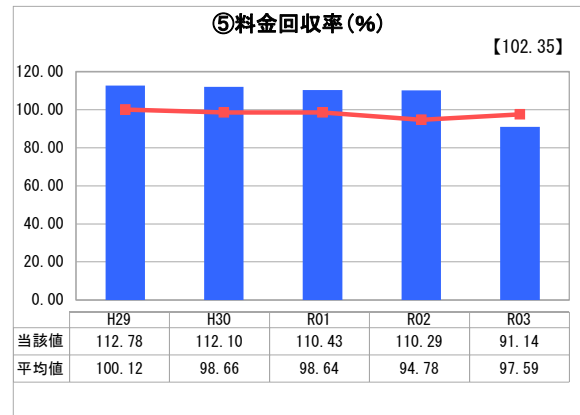
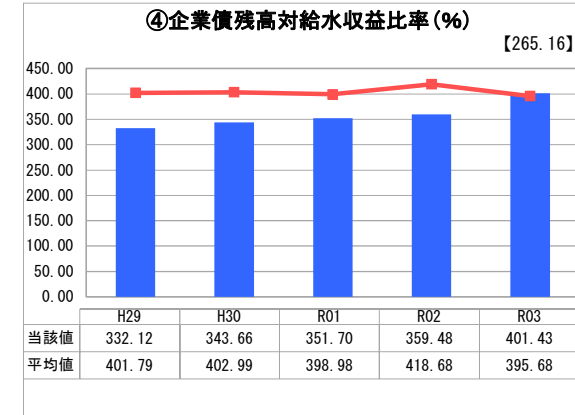
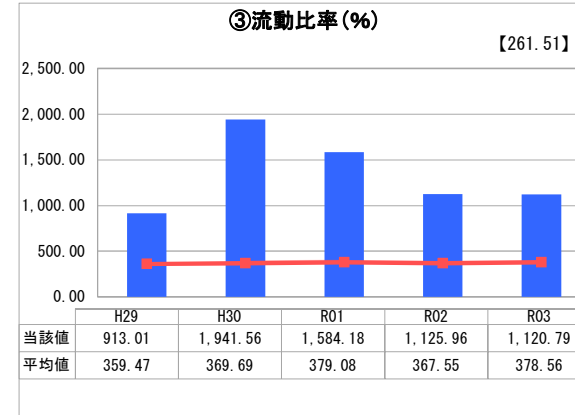
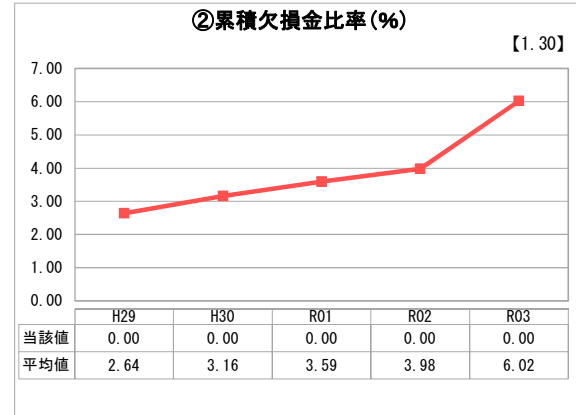
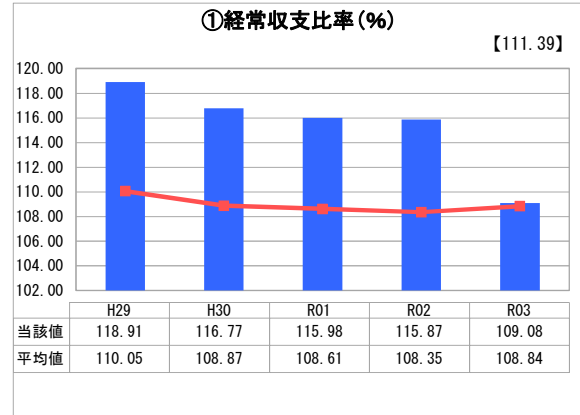
和歌山県 かつらぎ町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	79.62	95.09	3,400	

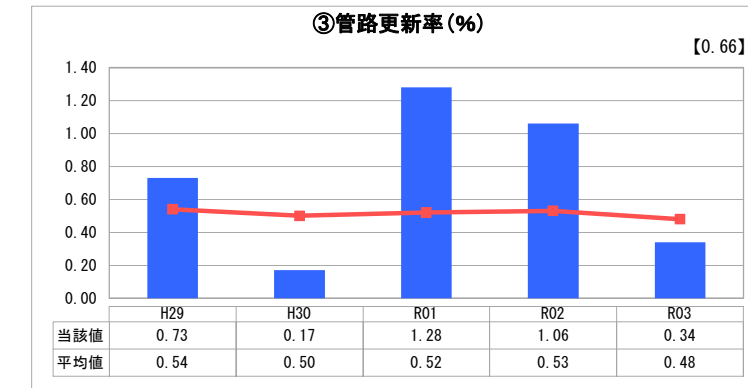
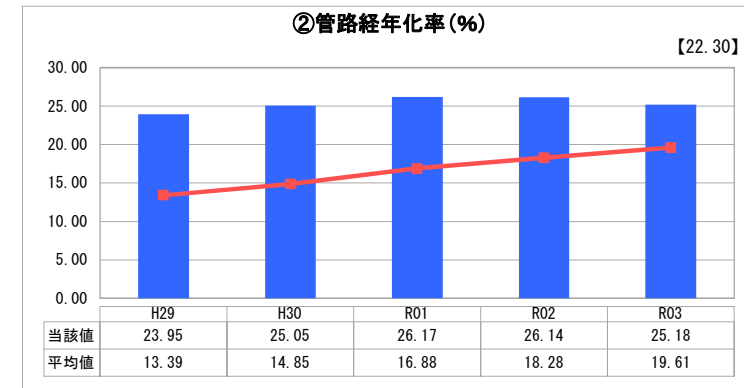
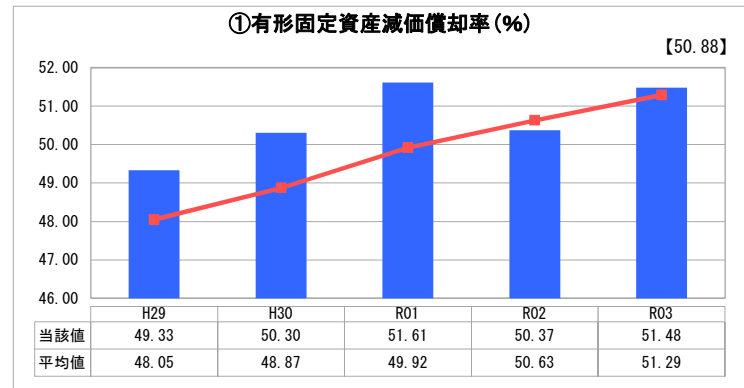
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
16,137	151.69	106.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,267	47.63	320.53

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体並みであるものの、料金回収率は今年度は類似団体を下回りました。また、給水原価は減価償却費の増加により上昇しており、経営が徐々に厳しくなっていると考えます。近年、更新投資に伴う企業債残高が増加傾向にあり、また給水収益は減少傾向にあることから企業債残高対給水収益比率は今後も上昇すると予想されます。有収率は80%前後で推移しており、漏水が多く、老朽管路の更新が追い付いていないと考えられます。なお、有収率の変動と施設利用率の変動が連動している傾向にあるため、施設利用率上昇が漏水によるものである可能性があります。今後も計画的に漏水調査をし、老朽管路の更新を実施する必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

平成30年度から令和2年度にかけて中央監視設備の更新を行ったため、有形固定資産減価償却率は令和2年度は減少しましたが、令和3年度以降、第2次拡張で整備した管路が更新時期を迎えており、有形固定資産減価償却率・管路経年化率はいずれも上昇傾向にあります。また、管路更新率も低い傾向にあることから管路の更新が追い付いていないと考えられます。今後も安定的な財源の確保と老朽資産の更新に取り組む必要があります。

### 全体総括

現在の経営は安定していますが、急激な燃料価格に高騰による支出の増や、施設の更新需要の増加が見込まれます。今後給水人口減少等により利益の減少が予測されるため、財源の確保とより優先順位を付けた老朽資産更新に取り組む必要があると考えられます。